



平成 28 年 1 月 25 日「喜久屋 駒井」にて

俳句同好会

代表世話人 小野 野一

世話人 山科 爽風

一般社団法人京都電業協会の俳句同好会も回を重ねて、第百八十六回を開催する事ができました。現在会員九名で句座、吟行を開催しています。初心者を含め入会をお待ちしています。

第百八十六回 平成二十八年一月二十五日(月)

兼題 「初句会」「鏡餅」「雪晴」「粕汁」
句座 「喜久屋 駒井」京都市東山区川端通松原上る

兼題句

- 酒に目が兼題無視の初句会 宮本
- 洋風のおせち料理がはばきかせ 佐伯
- ◇ 老妻と重ねし年にかがみ餅 紫峰
- 玄閑にとつかり座る鏡餅 野一
- 人生を重ねて嬉しかがみ餅 紫峰
- 初句会おちよこ片手に想を練る 巽
- 粕汁や湯気の向こうに妻の愛 進藤
- 初弘法外人客が買う古着 陵南
- 束の間か雪晴れの間空の青 野一
- 鏡餅醍醐で争う怪力を 巽
- 初句会みんなの笑顔のそろい踏み 進藤
- やれうれし句友と御神酒と初句会 紫峰

粕汁のお代わり重ねほろ酔いに

巽

初句会頭ひねるあと一句

桜井

雪晴れてしろきまぶしき目を閉じる

宮本

賀茂川が右窓に見え初句会

野一

初場所の清めの塩が高く舞い

陵南

床の間の樹脂でできたる鏡餅

進藤

粕汁の湯気の向こうに赤い顔

桜井

粕汁の美味さほろ酔う母の味

野一

リフォームし飾る場所なし鏡餅

宮本

雪晴の比叡を望む京の街

巽

雪晴や散歩の景色が二割増し

進藤

鴨川に友の笑顔と初句会

紫峰

◇…最多得票句を示しています。



追記

世話人 山科爽風が忙しさにかまけ、昨年は一度しか句会を開催できませんでした。会員皆様には誠に申し訳ございません。今年はせめて三度ばかり開催できるように、そして楽しい句会になりますよう、小野代表世話人様のご指導の下、努力致します。

吟行、句坐では先輩や他の会員がわかりやすく、時に厳しく論評して下さいます。句坐はいつも笑い声が絶えません。初めての方でもすぐに打ち解け、回を追う度に上達が実感できます。とてもいい頭の体操です。

俳句はちよつと難しいかなと思つているあなたも、是非ご入会下さい。

評よりも票の気になる 初句会（爽風）

※凡人の心境を読みました。

山科 爽風

俳句同好会参加者

正会員

(株)オリヂナル電設

三和電気工業(株)

(株)昭和電工社

東邦電気産業(株)

(株)日本電気

宮本電気工事(株)

山科電気工事(株)

石崎 一郎 (陵南)

小野 俊一 (野二)

進藤 久和

佐伯 希彦

松井 章 (紫峰)

宮本 みつへ

山科 隆雄 (爽風)

特別参加

三木 一義 (窓外)

投句

巽 信吾 (事務局)

桜井 舞子 (事務局)

元職員)

元職員)

平成二十九年二月

協会広報誌 第六十三号掲載



平成29年9月25日「南禅寺 菊水」にて

俳句同好会

代表世話人 小野 野一

世話人 山科 爽風

第百八十七回 平成二十九年三月六日(月)

兼題 「初句会」「余寒」「梅見(観梅)」

「雪囲い」「春眠」

句座 「喜久屋 駒井」京都市東山区川端通松原上る

兼題句

一般社団法人京都電業協会の俳句同好会も回を重ねて、第百八十八回を開催する事ができました。現在会員七名で句座、吟行を開催しています。初心者を含め入会をお待ちしています。

◇ 梅香る情緒消し去る外国語

爽風

二人して陽だまりを行く梅の道

爽風

マフラーを手離しかねる余寒かな

陵南

雪囲い背中合わせの猷道

宮本

春眠や二度の夢見に浸りけり

野一

喜寿の友駄句誉め合うか初句会

野一

鴨川に並ぶ姿に余寒なし

桜井

厳寒を健気に耐えし梅見かな

紫峰

いそいそと余生を貫ひて初句会

陵南

よき友と美酒を楽しむ初句会

巽

人気なき庭に紅梅三分咲き

陵南

春眠と言ひ訳けしてはフトン中

宮本

いぎなうは電車の揺れか春眠か

桜井

寒梅のほのかな香り鳥集う

巽

余寒の頃熱爛かさねて過ぎゆく

佐伯

加茂の辺に久しき句友と初句会

紫峰

雪囲い薫の香りに増すぬくみ

野一

花の下寒さこらえて梅見酒

宮本

墓参り誰がたむけた梅一輪

佐伯

杖つきつ公園の道梅ひらく

陵南

明けてより心待ちにし初句会

紫峰

投句して思いを馳せる初句会

桜井

◇ 辛口の先輩逝きて初句会

爽風

◇…最多得票句を示しています。

第百八十八回 平成二十九年九月二十五日(月)

兼題 「菊」「蟬」「門」「旅」
句座 「南禅寺 菊水」 京都市左京区南禅寺福地町

兼題句

朝市の花屋に菊の勢揃い 爽風
門灯の消えてくつきり星月夜 陵南
旅をする枯葉一枚ボンネット 宮本
塩飴をリュックにつめて夏の旅 巽
ありし日の父母に供える菊の花 進藤
枚パーおきな思い出菊人形 野一
南天の枝にはつく蟬の殻 宮本
絶景の三門つつむ青紅葉 巽
門札をおおいかくしてしだれ萩 陵南
旅路にて秋刀魚のけむり霞む里 桜井
命ある限り尽くさん蟬時雨 紫峰

ウォーキングビジーエムは虫の声 進藤

◇ 踏みかけてそっと手に取る蟬の殻 巽

コスプレをネットで探す秋祭り 進藤

パンフ見て尾瀬の涼風盗みおり 爽風

地藏さん孫と一緒に野菊活け 巽

門を開け夜露に光るくも糸 宮本

ふるさとの畦道染める彼岸花 巽

南禅寺末広がりの秋句会 陵南

無住寺かぼそき秋桜迎えおり コスモス 爽風

旅支度宵から手間を家の神 野一

◇ 盗み聴く鈴虫たちの一門会 桜井

菊の香を移し苔むす石畳 紫峰

◇：最多得票句を示しています。

追記

昨年の二月、同好会の長老 三木一義(元 京都府電気工事工業組合 専務理事)が逝かれた。俳号は「窓外」と称された。

吟行や句座では辛口の論評が飛び出し、それを聞くのが私の密かな楽しみでもあった。

窓外作「人去るも動かぬ二人朧月」や「花篝光芒闇を深くせり」などは色気があり

大好きな句である。一方で「大あくび窓に映りし夜長面」はまた何ともユーモラスな句ではないか。私の今号掲載の句「辛口の先輩

逝きて初句会」は窓外先輩を偲んだものである。もう一句窓外作「政局はいかにと枝豆

追加せり」。今は天国で枝豆とお酒を楽しみながら、下界の句会に辛口の論評を加えて頂いていることであろう。

山科 爽風

俳句同好会参加者

正会員

㈱オリヂナル電設 石崎 一郎(陵南)

三和電気工業(株) 小野 俊一(野一)

㈱昭和電工社 進藤 久和

東邦電気産業(株) 佐伯 希彦

㈱日本電気 松井 章 (紫峰)

宮本電気工事(株) 宮本 みつへ

山科電気工事(株) 山科 隆雄(爽風)

投句

巽 信吾(元 職員)

桜井 舞子(元 職員)

平成30年7月2日 第190回例会



平成30年11月26日 第191回例会

俳句同好会

代表世話人 小野 野一

世話人 山科 爽風

一般社団法人京都電業協会の俳句同好会も回を重ねて、第百九十一回を開催する事ができました。現在会員九名で句座、吟行を開催しています。初心者を含め入会をお待ちしています。

第百八十九回 平成三十年一月二十九日(月)

兼題 「松の内」「寒波」「節分」「三が日」
句座 「喜久屋 駒井」京都市東山区川端通松原上る

兼題句

妻癒えよ願いをこめて豆を撒く 陵南

◇ 節分に福願うこと百万遍 桜井

三が日俳句三昧過ごしけり 陵南

◇ 節分の豆あてにして酔ひにけり 野一

◇ 故郷のなまり懐かし三が日 桜井

◇ 料亭に負けじ劣らじ妻の節 爽風

三が日過ぎし静けさ戻る居間 野一

◇ 節分のおばけで学ぶ流りかな 進藤

◇ 寒波来し頭沁みある帽子付け 野一

◇ 寒波をも何するものぞ受験生 巽

◇ 松の内師走以上のせわしなさ 進藤

節分は老いも若きもまるかじり 巽

そろそろと寒波の朝に扉開け 紫峰

◇ ひさびさに娘の酌で雑煮かな 爽風

◇ 熱爛に浸りし笑顔三が日 紫峰

第百九十回 平成三十年七月二日(月)

兼題 「雪解け」「新人」「新緑」「蝸牛」
句座 「佳久」京都市中京区押小路通柳馬場西入

兼題句

凜としてバス待つ君にさくら舞う 山本

五月晴緑トンネル加茂の道 紫峰

桜より淡き頬紅初化粧 山本

◇ 新緑の香りに覆われ溪釣り師 野一

◇ かたつむり夕立去りのしのしと 山本

◇ 悠然と何も気にせぬ蝸牛 紫峰

葉一枚に濡れあと左右蝸牛 野一

額彩で出せぬ新緑目を休む 陵南

◇ 日に解けて母なる海へ旅立ちぬ 山本

日向ぼこ気付けばわれも猫背なり 陵南

雨あがりいずこに向う蝸牛 巽

梅雨蹴って西野ジャパンが猛暑呼び 爽風

新人の賞味期限や夏近し 進藤

庭石や雨にあらわれ蝸牛 進藤

新人と偽わり挨拶4月バカ 宮本

第百九十一回 平成三十年十一月二十六日(月)

兼題 「猛暑」「災害」「秋空」「収穫」

句座 「田ごと本店」京都市下京区四条通河原町西入

兼題句

茜空山の錦と競りけり 山本

エアコンもスタミナ切れる猛暑かな 進藤

コンバイン塵舞い上がり秋空へ 野一

蝉しぐれ傘さす乙女濡らすけり 山本

朱黄色絵画連ねし東山 紫峰

蒼い空澄みきった空秋の空 野一

猛暑日は図書館行って涼をとる 信吾

◆ 暑すぎて児童等の歓声無き地藏盆 爽風

電気コンロまっかになって粟を焼き 佐伯

街路樹枝をおとされ秋日さす 佐伯

秋空に黒一点のトンビかな 宮本

災害に時間を取られて年の瀬や 宮本

災害のつめあと深き秋の山 進藤

石畳そつと積りし紅天使 紫峰

今夕は庭の茗荷の収穫祭 爽風

美酒佳肴友と語らう夜長かな 信吾

◆…各回の最多得票句を示しています。
◆…満票を示しています。

追記

俳句同好会の超ベテラン会員である石崎一郎(俳号・陵南)さんから嬉しいはがきを受け取った。「この句会発足第一回目からの生き残りは私一人となり、満九十二歳を無事過ぎて体力的にかなり衰えましたが、最後まで残ったのは俳句です。本を買い、新聞、テレビの俳句番組を見ている。今後とも投句しますのでよろしく。」俳句を一生の友としておられる方があり、世代を超えての心の交流がある。この同好会の醍醐味でもある。

昨年から北陵電工の山本氏が加わり賑やかさが戻ってきた。その上、舞鶴からも新会員が予定されている。益々楽しい吟行、句会を続けてゆこうと思う。
山科 爽風

俳句同好会参加者

正会員

- (株)オリヂナル電設 石崎 一郎 (陵南)
- 三和電気工業(株) 小野 俊一 (野一)
- (株)昭和電工社 進藤 久和
- 東邦電気産業(株) 佐伯 希彦
- (株)日本電気 松井 章 (紫峰)
- 北陵電工(株) 山本 利廣
- 宮本電気工事(株) 宮本 みつへ
- 山科電気工事(株) 山科 隆雄 (爽風)
- 巽 信吾
- (投句)事務局 元職員 桜井 舞子